

会長の一筆勝負!

自分らしく
行動する事

人と同じことではなく、
一つ上のことをやっこう。



SHOTALK! Vol.01

2026年5月発行

株式会社 松徳

本社・柏原工場：大阪府柏原市円明町1000-30

奈良工場：奈良県五條市出屋敷町186-10



松徳に縁ある人々と、 絆が深まることを願って。

代表取締役 横尾臣則

当社では『熱処理・表面処理技術で付加価値の高い仕事をし、縁ある人々を幸せにする。』というビジョンを掲げています。しかし現状を見ると、競合他社にない付加価値の高い仕事が多くできていないと言えず、最新の設備などもまだまだ活かしきれていません。また、従業員をはじめ、お客様や仕入れ先の業者様など、当社と縁ある人々を幸せにするというビジョンも達成できているとは思えません。ビジョンとは目指すべき姿であり、一つのゴールともいえませんが、そのゴールは遠く、経営者として本当にまだまだ道半ばであると感じています。

それでも私は、決して掲げたビジョンの実現を諦めてはいません。なぜなら松徳で働く従業員は、目の前の仕事にまじめに取り組む人が多く、仕事に正直で、責任感を持ったプロ集団としてまだまだ伸びていく可能性があると感じているからです。営業、製造、品質保証、輸送に至るまで一人ひとりの仕事の向上と共に、必ず他社にはない技術や製品を世に送りだしていけると確信しているからこそ、積極的な設備投資も行っているのです。

従業員の皆様には、仕事のために仕事をするのではなく、それぞれの人生の目的を明確にして、その目的を成し遂げるために仕事に関連付けて欲しい。そうすれば、なんのために仕事をしているのかもおのずと見えてくると思います。そしてまた一段上の仕事ができるはずで、自社のホームページや会社案内などの広報ではそんな仲間のことも紹介していきたいと考えています。縁あって松徳と一緒に仕事をするようになったことを、本当に良かったと思ってもらえるように私も経営の責任者として精一杯努力して参ります。

お客様に対しては、何かと至らない点もある現状を真摯に受け止め、お客様から重要な加工工程を預かっていることを良く理解し、安心・安全な仕事を通して、これからも必要とされる会社を目指して精進して参ります。

最後に、これからもさまざまな広報を通じて当社と縁ある方々に、私の考えやビジョン、仲間のこと、会社の取り組みなどを知っていただくことで、さらに仲良く、楽しく、気持ちよく仕事ができる一助になることを願っています。

柏原工場

航空宇宙・防衛分野にも飛躍！ AMS規格対応 真空熱処理炉を新設。



2026年2月、航空宇宙産業で求められるAMS規格に対応した真空熱処理炉「AMS規格対応一室型ガス冷却真空炉」(中外炉工業 製)が設置されました。本炉は、リーク性能 1×10^{-9} Pa・m³/s以下の高气密構造を有し、真空中で最大1250℃まで高精度加熱後、最大280kPaの高圧N₂ガス冷却により均一かつ低歪みな焼入れを実現します。航空宇宙・防衛分野など高信頼性が求められる分野への対応も可能な、炉内温度の均一性やトレーサビリティを重視した管理システムを有するほか、酸化や脱炭を抑えた高品質な熱処理も可能になり、既存の真空焼入れ・焼戻しにおいてもより高品質なサービスを提供できるようになります。本格稼働は2026年夏頃を予定。今後は高精度熱処理分野への対応を強化していく予定です。

柏原工場

航空宇宙業界における品質マネジメントシステム規格「JIS Q 9100」 認証取得！



柏原工場のスタッフが中心となって取り組むこと1年半。2026年3月、航空宇宙防衛産業向けの品質マネジメントシステム規格「JIS Q 9100」の認証を取得しました。この認証取得により防衛産業のサプライチェーンへの参入が可能になるなど、高い品質保証が求められる分野に対して、国際的な品質基準に基づいた熱処理サービスを提供できる体制が整いました。既存のお客様に対しても、工程管理やトレーサビリティ、リスク管理などの品質管理体制を強化し、安定した高精度熱処理サービスを提供してまいります。

■認証範囲
航空宇宙・防衛産業向け金属部品の熱処理加工に関する品質マネジメントシステム
適用規格: JIS Q 9100:2016
認証範囲: 防衛用特定製品に係る金属部品の熱処理

奈良工場

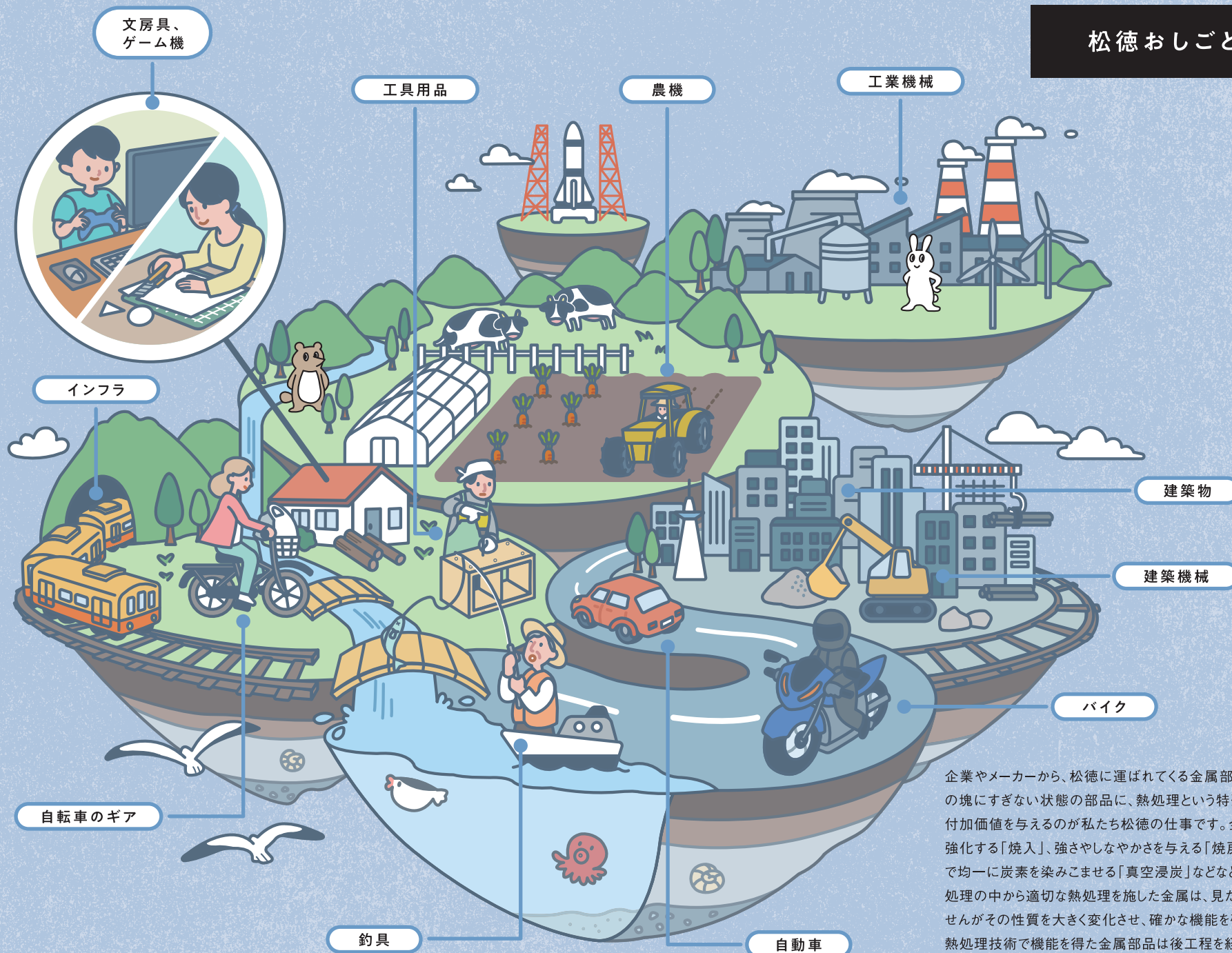
リフレッシュ&チャージ! 社員食堂、2026年5月末完成予定。

「食」は体の基礎。体も心もリラックスして食事を摂ってほしいという思いを込めて、奈良工場敷地内に社員食堂を建設中です。建築は地元工務店様にお願ひし、内装の一部には吉野杉や檜など地元産建材を使用。社員食堂としてはもちろん、会長と社員が語り合う場として、また、工場視察のウェルカムスペースや社員専用パーティースペースなど、さまざまに活用できる「自慢したくなる食堂」を目指しています。また、「松徳」に興味を持っていただくきっかけになればと考え、将来的には周辺企業や一般への開放も検討。新しい企業のあり方として、地域とつながる場づくりにも挑戦できればと考えています。



内観イメージ
キッチンに厨房機器を導入すれば、カフェなどとしても運用できます。窓からは、金剛葛城山麓の風景を楽しめます。

ここで生きてる、松徳の熱処理。



企業やメーカーから、松徳に運ばれてくる金属部品。まだ金属の塊にすぎない状態の部品に、熱処理という特殊工程により付加価値を与えるのが私たち松徳の仕事です。金属の強度を強化する「焼入」、強さやしなやかさを与える「焼戻し」、真空中で均一に炭素を染みこませる「真空浸炭」などなど、いろんな熱処理の中から適切な熱処理を施した金属は、見た目は変わりませんがその性質を大きく変化させ、確かな機能を確保。松徳の熱処理技術で機能を得た金属部品は後工程を経て、私たちの生活の身近なところで、あるいは将来につなげるプロジェクトで今この瞬間もその役割を果たしています。

松徳の熱処理品は、どこからどこへ

あのネジの行方



株式会社ミヤガワ様の

「ドリルねじ」

ねじ製造で1世紀。

ミヤガワ様は1926年(大正15年)、大阪市南区(現在の大阪市中央区)に創業。1937年(昭和12年)より現在の柏原工場(柏原市上市)の場所に移転し、木(もく)ねじの製造を開始します。1960年代からはハンガーボルトや冷間圧造用金具工具、特殊部品、キャリッジボルトなどの生産を開始。1973年(昭和48年)からは、世界最大の総合電機メーカーGE(ゼネラル・エレクトリック社)との長期契約を結びます。現在、ねじ製造だけでなく、ねじ加工に必要な金型や工具の製造まで、「ねじ」に特化したものづくりを徹底。高い専門性と技術力が支持され、2026年で創業100年を迎える老舗メーカーです。



株式会社ミヤガワ

所在地：大阪府柏原市上市
1丁目6番28号
www.miyagawa21.co.jp

やってみなわからんやる!の精神。

100年もの間、ねじを作り続けている企業は国内でも稀な存在です。企業継続の秘訣について、宮川会長はこう語ります。「僕たちはものづくりをやっているのですから、「できますか?」と聞かれたら「できません」と言わずにやってみて、うちの主義。損をしてもいいから一度取り掛かってみて、どうしても技術が追いつかないものがあれば、それまでの努力が水の泡にならないようにモノにしていくのが、ミヤガワのスタイル。実は私が若い時「できません」言うて、(創業者の)うちの親父にエライ怒られたことがあります。やってみなわからんやる、というのが、基本的な当社の姿勢になってるんですね。」



ねじの金型も自社製造し、精度をアップ。

ミヤガワ様の特長の一つが、ねじ加工のための金型工具も製造されていることです。通常のねじ製造は、素材が鉄鋼メーカーで、金型工具は専門工場、焼き入れ、メッキ加工も専門会社で分業制で進んでいきますが、長年ねじ作り専門で行ってきた経験から「ねじ作りの命は金型」と考え、1976年(昭和51年)には特殊部品や金型工具の専門工場として名阪工場(柏原市)を新設。要望どおりのねじを作るために金型を設計し自社生産することで、納期短縮と精度アップを実現。どんなドライバーでも合う「十字穴」部分を設計するなど、業界でも先駆的な存在となりました。

ORDER 建築業界も驚いた『ステンレスドリルねじ』

そして、『ステンレスドリルねじ』の開発も画期的なものでした。高炉メーカーと特殊ステンレス素材を共同開発するところから手がけた『ステンレスドリルねじ』は、建築物に下穴を開けなくても、電気ドリルで直接鉄板にねじ込めるという製品。ミヤガワ様では、鉄鋼メーカーから届くステンレスを、必要な太さに伸線するところから自社で行う徹底ぶり、現在は熱処理も自社で行われています。そうして完成した『ステンレスドリルねじ』

は、切れ味抜群のドリルスピードで、現場の作業時間を大幅に短縮。最高28mmの超厚鋼板も下穴なしで打ち込める強度を誇ります。

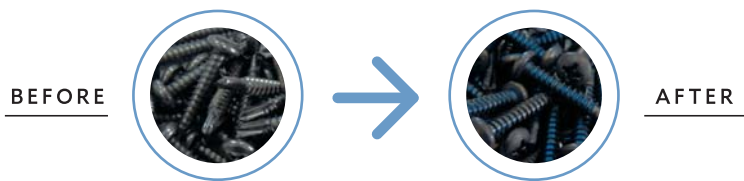


松徳では「ドリルねじ」などを浸炭処理!



ミヤガワ様では製造から出荷まで一貫システムを構築されているため、製品によっては熱処理も社内で行われるものもあります。松徳には、全種検査を経た製品がミヤガワ様から運ばれてきます。とくに熱入れにムラがしやすい「ドリルねじ」の的確な熱処理は、松徳が得意とするところ。当社奈良工場、浸炭焼き入れを行っています。

浸炭焼き入れ完了!



熱処理(浸炭処理)で改善される点

- ドリルの刃先性能向上
- ねじ山の耐摩耗性向上
- 折損防止、靱性の向上

熱処理のメリット

- 機械的特性の最適化により、硬さ・強度・靱性が向上する。
- 耐摩耗性の向上により、締結時の摩耗を抑制しトルク安定性、締結信頼性が向上する。
- 製品寿命の延長で締結時の衝撃や曲げに対して折れにくい。

株式会社ミヤガワ様の「ねじ」は、こんなところで使われています。

松徳で熱処理後、一部はメッキ加工を経て、資材や商品として国内や海外にはばたきます。



※写真はイメージです。

MESSAGE



株式会社ミヤガワ
取締役会長
宮川資夫さま

松徳さんとは、(松徳の前身となる)松徳パーカー工業所時代からのお付き合いです。早い時期から斬新で、いろんなことに取り組んでこられていて、今もどんどん前に進まれています。熱処理というのは、やり方を信用しないとイケない。そういう面では長年お付き合いすることで信用もできる。ずっと品質を維持されているということは、しっかりした規則に則ってやったださっているんだと思います。

ミヤガワ様とは、私の祖父の時からのお付き合いで、黒染め加工からお仕事をさせていただいておりました。宮川会長からは親父(現会長)とはよくケンカしたけど、結局は仲直りして今でも仕事をしている関係なんやとお聞きしております。私が一番印象に残っているのは、羽曳野工場で真空熱処理事業を始めた頃、熱処理の不良品が流出し、気まずい気持ちで不具合の対処をしていた時も、特に怒鳴ることもなく、一緒になってクレーム対応の協力をしていただいたことです。懐の大きさに今でも感謝しております。



株式会社松徳
代表取締役
横尾臣則



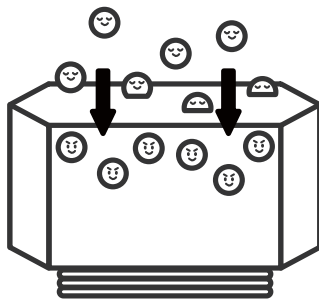
知ってそうで、きちんと知らない

松徳ワードの基礎知識

①

浸炭

(しんたん)



どんなこと?

金属の表面層を硬くするために、ガスなどを使って金属の表面に炭素を浸透させることです。

炭素を加えると、どうなるの?

金属自体を硬くするだけでなく、表面をキズやこすれから守り、外から力や衝撃があっても壊れず、しなやかに耐える力を発揮します。

松徳では、どうやって炭素を中にいれてるの?

「浸炭」にはいろんな方法があります。松徳では、「ガス浸炭」「真空浸炭」「高濃度真空浸炭」という技術を使っています。いろんな「浸炭」の話は、次号から解説します!

ONE TABLE

横尾社長と
サシのみ企画

テーマ

社長の会社、
どこの会社、
どうしたい
ですか?



スタッフと横尾社長が、ざっくばらんに語り合う企画「ONE TABLE」。第1回目の今回は、各現場で管理職に就く岸田さんと東野さん。「なんで、僕らが選ばれたんですか?」と緊張(と警戒?)を隠せなかった2人も徐々に打ち解け、普段から聞いてみたかったことを横尾社長にぶつけていきました。

奈良工場 製造部 班長
東野雄二

柏原工場 品質保証部 係長
岸田晃弥

株式会社松徳 代表取締役
横尾臣則



品証の頃は

「すみません」が口癖やったな。

横尾 今日はね、岸田君のリクエストで寿司屋に来ました。

東野 贅沢ですね。ありがとうございます。

横尾 岸田君には、JIS Q 9100(航空宇宙業界における品質マネジメントシステム規格)の認証取得にあたって事務局長をやってもらって。ようやく遂げたな。大変やったと思う、1年半も。

東野 1年半か。長いプロジェクトですね。

岸田 ISO認証の時もこうだったのかなと、わかってなかったことがわかりました。

横尾 そういう大変さも、ええ経験やったと思う。じゃあ乾杯しますか、今日はお疲れさーん!(乾杯)

東野 今日は緊張してます、社長は雲の上の存在なんで。



ない、でも仕事が欲しいから「やります、できてます、頑張るんで仕事ください」の一心や。認定工場も一社もなかった。

岸田 そうなんですか。

横尾 認定がないと、仕事をもらうステージにも立たれへん。最初の認定工場を得るために書類作成も全部教えてもらって。監査受けたら指摘事項が山盛りや。

岸田 僕、口下手なんで、お客様に何喋ったらええんかわからないです。

横尾 僕からしたら2人はできてる。あとは「切羽詰まった感」。JIS Q 9100の時は切羽詰まったやろ? 誰でもミスはしたくない。でもそこから逃げていると人間は成長せん。失敗を恐れずどれだけ突っ込んでいくか。それで変わってくると思う。

岸田 難しいなあーっ! とはいえ、自分上にいる人に「下剋上」するつもりで頑張ってます。

横尾 お! それくらいの気持ちがないと! そのためにも「あいつに言われた、腹立つ、でもしゃあない」って思われるくらい、明らかに「差」を見せなアカンし、コミュニケーションはとんでも馴れ合っているのはアカン。岸田君は言うべきことは上の人にも言う、それは良いとこや。みんなも認めてる。でも、言い過ぎて揉める時も、あるな(笑)。

岸田 難しいとこですね(笑)。

横尾 東野君も優しいもんな。

東野 言うことは言うべき、とは思んですけど。自分ももっと完璧やったら……。

横尾 完璧じゃなくても言ってええと思う。東野君は「言われやすいキャラ」やん。そこを逆手に取ったらええと思う。

東野 そういえば最近、早く仕事を終えた人が僕の仕事を手伝ってくれて、嬉しかったです。

横尾 助けたいなあと思わせるキャラでええやん! 2人ともそういうキャラやと思うで。

松徳の可能性は、無限大ってことですね。

東野 社長は、この会社をこれからどうしていくこう思ってるんですか?

横尾 値段が高くても「松徳なら、これができるからお願いしよう」と思ってもらえる会社になっていきたいし、働いている人にも「仕事はしんどいけど、やりがいがあるな」って思ってもらえる会社になりたい。人生のほとんどが仕事やる? 仕事が嫌やったら、人生も嫌なまま終わってしまう。みんなの人生を楽しくしていく方向に持っていくのが俺の仕事。そのためには当然、売上も利益も出していく必要がある。

東野 そうですよな。

横尾 あ、俺だけが儲かるような会社は目指してへんから安心してや(笑)。俺もチャレンジするからな、これからも。うちはまだまだ伸び代がある

東野 可能性は無限大ってことですね。

横尾 うちの会社も関西では業界の上位におるから、何も卑下する必要はない。どう? 勝ちたいと思う?

東野 どうせだったら1位になりたいっすよな、間違いなく。

岸田 勝ちたいとも思うし、難しいなとも思う。ねじは絶対うちが強いと思うんですけど。

横尾 JIS Q 9100の認証資格は、まだ取っているところは少ない。勝ってるやん(笑)。

岸田 そうなんですか! じゃあ土地を確保している太子町でも何かするんですか?

横尾 まだ決めてないけど、熟処理とメッキを活かして『松徳ブランド』を作りたいなって。



東野 おー初耳ですね。『松徳工業所』から『工業所』を外したのも、そういう意図があったんですね。

横尾 イマドキやったらローマ字表記(SHOTOKU)だろうけど、『松徳』はそもそも、祖父の名前「横尾彦松」からとった社名やから。そこは変えずにこだわった。

東野 原点ということですか。

横尾 そう、原点。会長も自分の親父やオカンを勝たせたくて、がむしゃらにやってきた。そこは俺も受け継いでる。『松徳DNA』やな。でも、横尾家だけが頑張ったって知れたもの。一緒にやっていくみんなで、これからが決まっていくから。



トークを終えて…

岸田 会社だったら「社長」という立場で言わなきゃいけないことがあると思うけど、今日はホンマに本音を聞けたって感じがします。

東野 なんて選ばれたんだろ……って、緊張してしょうがなかったんですけど、社長の考え方が聞けてありがたかったなって思います。

横尾 新鮮でしたね。日頃から言っているつもりでも、「伝わってないな」と改めて思いました。でも、正直に僕に聞いてくれるのは嬉しかったですね。

次の50年に向けて、老舗企業から学ぶ。
センパイ企業に聞いてみた。



今号のセンパイ

株式会社九櫻さま 1918年創業

オリンピックに支持される、
世界唯一の柔道着専門メーカー

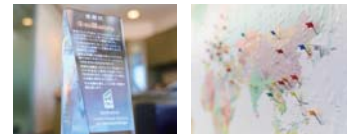
九櫻(くさくら)の発祥は大阪府八尾市恩智。創業者は、この一帯の名産だった綿花から糸を紡ぎ、織機を用いて生地を織って剣道着や柔道着に仕立て、武道具屋に行商に出かけたという。柔道着に専念したのは戦後から。武闘家同士が引っ張り合っても破れず、それでいて着心地が良い理由は、独自の技術で織り上げる細かい刺し縫い「九櫻刺子」だ。まさしく硬軟織り交ぜた道着は、世界各国から注目される存在に。2016年のリオ五輪では、メダリストたちの道着をアディダスとミズノ、そして九櫻が独占。2024年のパリ五輪の柔道団体戦では、金、銀、銅を獲得した3国の道着の腕に『S』のマーク。桜と帯をモチーフにした『九櫻』のロゴマークだった。

戦後、GHQによる武道禁止令のため、モンペを作っていた時期もあった。オイルショックの後には銀行管理下に置かれる可能性もあった。危機を乗り越えながら貫いてきたのは、布作りから縫製までの一貫生産。2020年には、刺子織の生地を使ったパーカーやパンツでアパレル業界に進出。さらに2024年には、筋トレ専用ウエアブランドもスタートした。代表取締役会長 三浦正彦さんは、「思いついたら、行動に移しながら考えていく。前向きに、絶えず前向きに考えるということをやってきました」と語る。躊躇していても挑戦すべきタイミングがくる。そして、そのタイミングを感じることも必要だ、と。「新しい市場で受け入れられるかどうか、やってみないとわからない。あとは努力以外にないと思っています」。

印象に残った言葉
センパイの一言

『絶えず、前向きに考える』

LEARN
FOR THE NEXT
50 YEARS



DATA



株式会社九櫻

所在地：大阪府柏原市上市3丁目11番21号
www.kusakura.co.jp

柏原工場 若杉さんは、

フットサルに燃えている!

柏原工場 製造部 課長
若杉洋志さん

守護神として、

時速100kmのシュートを阻む!

プロから社会人チーム4部まで構成されるフットサルリーグで、大阪府社会人フットサルリーグ1部所属チーム『FCボルチ』でキーパーをしている、柏原工場の若杉さん。週3日、終業後に東淀川区まで移動し、午後9時から1時間半の練習に参加。土日もリーグ戦と、ハードながらも充実の日々を過ごしています。「フットサルの魅力は、攻守の切り替えが早いところ。攻められてる!と思った瞬間に点を獲ることもあって、残り数秒まで勝負がわからない。特に僕はキーパーなので、最後まで集中していないといけません」。小さい頃から続けていたサッカーから、フットサルに転向したのは大学在学中。36歳でキーパーとなり、時速100kmにもなるシュートを体を張って阻んでいます。若杉さんが所属する『FCボルチ』は、粘り強さと守備の硬さで上位チームをかき回すプレイが持ち味だとか。「大阪1部のチームでプレーするのが夢だったので、このチームで結果を残していきたい!」と、楽しそうに語ってくれました。

お工作中的の若杉さんは、「実行力」に燃えている。



4月から製造課長に昇進した若杉さん。「同じものを熱処理しても、日々気温や湿度が違うので、全く同じ作業というのは1日としてない。対応の仕方も変わってくるので、飽きることはないですね」と語ります。最近では、現場の意識が同じ方向を向き始めていると感じるとか。「以前は、例えば「きれいに、ミスなく」ということも一人ひとりが考えつつも足並みが揃わなかった。今はいろんな意見が出てくるので、やりがいがあります」。目指すのは、豊かなコミュニケーションで、社長との距離ももっと近く感じる現場にすること。松徳でも守護神は健在です。

奈良工場 牛田さんは、

トレーニングに燃えている!

奈良工場 品質保証部 課長
牛田耕一さん

あっこ

熱!



自然体で心身を鍛え、整える!

「少しずつ、できなかったことができるようになるのが筋トレの魅力」と語る牛田さん。息が上がらなくなったり、懸垂の回数が増えたり、年齢を重ねても成長を感じられるのが嬉しいとのこと。筋トレを始めたのは3年ほど前から。エクササイズは主に休日や仕事終わりで、無理のない範囲で続けてきたという。「オッサンがあんまり必死にやると暑苦しいというか、恥ずかしいじゃないですか(笑)。無理せず、自然にやっている感じが理想です。筋トレの他にもランニングやサイクリングなどの運動も続けることで、生活のリズムが整い、気持ちの切り替えもしやすくなったとか。「気持ちに余裕も出てきました。なんかあったら走って逃げよう!たぶん逃げ切れる!みたいな(笑)」。これからも、特別な目標を追いかけるといふより心身の健康を大切に、日々を心地よく過ごしながら、仕事も無理なく向き合える状態を作りたいと語る牛田さん。自然体で語る姿に大人の余裕を感じました。

お工作中的の牛田さんは、クールに燃えている。

品質保証の仕事に従事する牛田さん。仕事では、検査結果やルールを確認する冷静さと、責任を持って判断する『思い切り』のバランスを大切にしているという。「段取り8割の精神で、あえて超悲観的になって万全の準備をするようにしています」。また、現場では1回のミスに目が向きがちだが、その裏ではうまくやってくれている人や日々の積み重ねがあるということも忘れず、現場が安心して働ける環境づくりに貢献したいとも。これからは品質保証だけでなく、オールマイティな視点でチームに還元できる存在になりたいと語ってくれた牛田さん。派手さは無いがシブいです。



